



シルバーだより

道 標

第 13 号

H31. 1. 1

理事長
生涯現役社会に向けて

大分市長
年頭のごあいさつ

部会長
新年にあたって

トピックス
シルバークエスト・互助会

会員の手記「その二」

掲示板

2

3

4
5

6

7

8

一年間の安全を祈って = 事故“^{ゼロ}”への挑戦 =



平成31年1月11日 安全祈願 於：長浜神社



安全就業規準が厳守されているかパトロール中の安全委員



公益社団法人
大分市シルバー人材センター
理事長 右田 芳明

新年明けましておめでとうございませう。

会員の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

皆様方には、平素から、当シルバー人材センターにおいて、請負・委任・派遣といった業務に精励されることはもとより、清掃ボランティア活動にご参加いただくなど社会貢献にも多大なご尽力を賜っており、心から感謝とお礼を申し上げます。

ご案内のとおり、我が国は、既に、超高齢社会・人口減少社会を迎えておりますが、社会保障関係費の増大や生産年齢人口の減少等が懸念されております。

生涯現役社会に向けて

の実現が強く求められているところでございます。

こうした中で、人生百年時代を見据えながら、意欲と能力のある高齢者の皆さんが、地域の課題を解決する支え手となるとともに生きがいをもって社会に参画する「生涯現役社会」

シルバー人材センターも、高齢者に就業機会の提供を行うなど生涯現役社会の実現に向け、その一翼を担っています。全国的に共通する大きな課題は、会員数の拡大であります。

全国の会員数は、平成21年の79万人をピークに減少し、最近では72万人前後で推移していますが、全国シルバー人材センター事業協会は、平成30年度か

らの7年間で、100万人に増やす計画を策定しており、各拠点シルバーも、この計画に沿って会員の増強に取り組んでいます。

当センターにおきましても、会員数は、昨年度末の約15000人から、本年度末には16000人を超えるまで増加する見込みでございますが、今後とも、女性会員を中心に会員数の拡大に

取り組んでまいりたいと考えております。

また、当センターの契約実績につきましましては、介護予防・日常生活支援総合事業をはじめ、児童育成クラブ事業、シルバー派遣事業など新たなニーズに対応した事業にも積極的に取り組み、大きな成果を挙げています。

特に、順調に伸びているシルバー派遣については、高齢者雇

用安定法の改正に伴い、申請に基づき県知事の指定を受けることにより、これまでの週20時間から週40時間までの就業が可能となりましたので、今後さらに業務の拡充が期待されるところでございます。

このような状況の下で、当センターにおきましては、今後とも、中期計画に基づき、会員数の拡大を図ることはもとより、新規事業の開拓や安心安全な就業の確立等に取り組んでまいりたいと考えておりますので、会員の皆様には、より一層ご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びになりますが、会員皆様方にとりまして、この一年が素晴らしい年となりますことを心からご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。





年頭のごあいさつ

大分市長

佐藤 樹一郎

明けましておめでとうござい
ます。

公益社団法人大分市シルバー
人材センターの会員の皆様をは
じめご関係の皆様方におかれま
しては、輝かしい新春をお迎え
のことと心からお慶び申し上げ
ます。

また、平素から、高齢者の就
労機会の創出・拡大に積極的に
取り組んでいただいております
ことに、深く敬意を表しますと
ともに心から感謝申し上げます。

さて、我が国では現在、世界
に類を見ないスピードで高齢化
が進行しており、加えて人口減
少社会が到来する中、社会の活
力の維持が喫緊の課題となっ
ております。

本市におきましても、今後、
人口は現在の約48万人から
2040年には約44万人に減少
する一方で、65歳以上の老年
人口は年々増加し、高齢化率は現
在の約26%から34%に達すると
推計されており、働く意欲のあ
る高齢者の就業環境の整備は、
活力あるまちづくりには不可欠で

あると認識いたしております。

このような中、貴センターに
おかれましては、会員の皆様が
長い人生の中で身につけた経験
や知識、技能を活かし、地域に
根ざした幅広い事業を展開する
ことにより、高齢者の社会参加
と就業機会の確保にご尽力いた
だいており、その役割は、今後
さらに重要になるものと考えて
おります。

また、近年では、貴センター
内に金池小学校区の児童育成ク
ラブを開所し、放課後の児童の
遊びと生活の場を提供してい
だいているほか、ひとり暮らし
高齢者などへの援助にご協力い
ただいている軽度生活援助事業
の実績も大きく増加しているな
ど、時代の要請に応えたさまざ
まな事業にもお力添えをいた
だいているところでございます。
改めて、厚くお礼を申し上げます。
本市といたしましても、貴セ
ンターの取り組みを積極的に支
援しながら、誰もが住み慣れた
地域で生きがいを持って、健
やかでいきいきと暮らしていける

地域社会の実現に向け、施策を
展開してまいりますので、会員
の皆様の一層のご支援とご
協力を賜りますよう、お願い申
上げます。

この秋には、「ラグビーワール
ドカップ2019日本大会」
が開催され、本市では世界屈指
の強豪国による好カードが予
定されており、国内外から多
くの観戦客がお越しになりま
す。さらに、来年には、「東京
2020オリンピック・パラリ
ンピック」も開催されます。こ
うした世界的ビッグイベントの
開催を好機と捉え、市民の皆様
と一丸になって大分の多彩な魅
力を全国へ、また世界へ発信し
てまいりたいと考えております。

結びにあたり、公益社団法人
大分市シルバー人材センターの
今後ますますのご発展と、会員
の皆様のご健勝、ご多幸をお祈
りいたしますとともに、皆様方
にとりましてこの一年が健やか
で実り多い年でありませうこと
をご祈念いたしまして、新年のご
挨拶いたします。

謹賀新年

各分会会長
安全委員長

新年のご挨拶

剪定部会 草刈部会 草取部会
福祉・家事援助サービス部会 安全委員会

さらに充実した
部会運営を目指して



剪定部会 会長
佐藤 聡
(大道班)

会員並びに職員の皆様、明けましておめでとうございます。良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

初めに、皆様には、平素より植木剪定部会に対し格別のご支援ご協力を賜り、この場をお借りして、心から感謝とお礼を申し上げます。本当に有難うございます。

さて、既にご承知のこととは存じますが、近年の少子高齢化と人口減少社会における労働環境を取り巻く状況は、とりわけ

急速な高齢化の進行に伴う定年延長をはじめとする雇用制度の改変が余儀なくされるなど、労働生産性の向上のための「働き方改革」が求められていると云えます。

高齢化の影響は、当センターも例外ではなく、特に剪定部会においては、技術の向上はもとより、昨今の時代の流れを踏まえた部会の今後のあり方の検討が、喫緊の課題となっており、具体的には、会員の高齢化に対応できる新入会員の確保と技術の承継が挙げられます。

従い、発注者の負託に的確に対応るべく、本年も剪定技術のスキルアップと安全就業のための危機管理の徹底を図るとともに、シルバー世代に見合う充実した部会運営の検討を進めてま

いりたいと考えております。

今後も剪定部会の位置付けと意義を自覚し共働、共助の理念のもと、安全を第一義に剪定部会員一同鋭意努力していく所存でありますので、引続き皆様方のご指導・ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

安全就業規準の
遵守を！



草刈部会 会長
佐藤 健次
(佐賀関B班)

シルバー会員の皆様、事務局職員の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年の草刈部会は、「就業中の事故0」を目標にやってきましたが、残念ながら達成することができず、「5件」の発生となりました。

今年も再挑戦として、「事故0」を部会の目標としてやっていきたいと思っています。就業前の朝のミーティングは

勿論、草刈機の点検整備・必要な安全道具の確認チェック等や、先輩班長、事務局職員さんの知恵・助言を参考に「事故防止」がごく自然にできるような体制を構築することが事故減少に繋がるものと思っています。

特に草刈会員さんの皆さんには、作業前の安全就業基準を再確認し、頑張っていたいただきたいと思えます。

新年を迎え、心新たに「事故0」をめざして頑張りましょう。

簡素な風通しのよい
組織を目指して



草取部会 会長
中城 正士
(寒田A班)

新年明けましておめでとうございます。

昨年発足した草取部会は、会員高齢化・新規会員激減・受注件数増加に対応するため、会員相互のお助け(共同作業)の拡大を図ると共に、会員とセンターとの情報交換等を通じて、

安全かつ円滑な作業の推進を目的としています。

本年の草取部会の課題は、中長期的な視点を踏まえて、目的・組織・具体的な活動等の骨格を固めることが肝要と思います。剪定・草刈・家事援助部会の活動状況を参考にして、簡素で風通しのよい効率的な組織が望ましいと思います。

終わりに、会員皆様方のご健勝とご多幸、合せて新規会員加入と草取り受注件数増加とシルバー人材センターの益々のご発展を祈念して新年のご挨拶と致します。

お互いのスキルUPを 目指そう！



福祉・家事援助
サービス部会 会長
浦山かおる
(東大分C班)

会員、職員の皆様、明けましておめでとうございます。本年も昨年同様、宜しくお願いいたします。

昨年は、超高齢化社会に伴い、お客様からの就業依頼も多くなり、会員皆様の働き頑張りにより、大変感謝していると感ずかれます。部会の新規会員がなかなか増えないなか、旧会員さんのご協力で無事に一年を過ごすことができました。

今年も昨年同様依頼が増えると思っておりますので、部会員の皆さんにはぜひ勉強会、講習会、地区集会に勧んで参加をしていただきたく思っています。部会員同士の横のつながりを大切にし、家事援助サービスの提供のスキルアップを目指し、お互いに頑張りましょう。また一年間を通して、怪我のない安全な作業を心がけたいと思っておりますので、本年も宜しく申し上げます。

事故ゼロを目指して



安全委員会 委員長
幸 義広
(田尻C班)

会員並びに職員の皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと

心よりお慶び申し上げます。

さて私は、昨年四月一日に安全委員会の委員を仰せつかりました田尻C班の幸義広と申します。

微力ではございますが、安全就業の推進による「事故未然防止」について取り組んでまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、安全委員会とは会員皆様の健康と就業の安全に関する事項を検討し、その対策を推進するために設置されたもので、会員が健康で安全に働くことができるための実施計画の策定や、就業上の事故の分析とそれに伴う事故防止対策の樹立に関することなどを主な任務としております。

申すまでもなく事故の未然防止には「安全就業基準」の遵守が不可欠であり、会員は就業に際して就業基準を遵守し、あらゆる事故の発生防止に努めなければならぬと規定されています。

しかしながら昨年の事故のな

かには、草刈機による「飛び石」発生事故や、作業中の転倒などによる「骨折」事故、所謂、人身事故などがその多くを占めています。

また、昨年の夏は記録づくめの猛暑日がつづき、皆様のお仕事にも支障を来たすこともあったのではないかと思います。

そのような環境下にあつて、お客様(発注者)のニーズに因應するためには、先ず安全就業基準をきっちり守ること、具体的には安全心得(始業ミーティング、安全第一の作業、工具器具の点検、服装履物点検、合図連絡等々の確認)並びに作業別安全就業基準(植木剪定、草刈り、除草、清掃等の作業)の適宜・的確な確認などが欠かせません。

会員の皆様には安全就業基準を再度ご確認いただき、お仕事に精励されますようお願いいたします。

本年も会員の皆様方とともに「事故ゼロ」を目指して努力してまいります。



再生自転車の販売

スーパーボールすくい



開場前の長蛇の列



手作り品の販売



ピエロによる
バルーンアート



折り紙教室



バナナの叩き売り



野菜・果物を求めて

住民の方々をはじめ650名以上の皆さんに来場いただきました。参加された多くの会員の方々事務局職員、準備・運営に携われた皆様に心より感謝申し上げます。

第3回

シルバーふれ愛フエスタ開催

庶務班 池邊 義幸

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。昨年11月11日に第3回ふれ愛フエスタを開催いたしました。

互助会だより



互助会 会長
台 博美
(寒田B班)

あけましておめでとうござい
ます。
皆様方には健やかなお正月を
お迎えのこととお慶び申し上げ
ます。

昨年 は 互助会行事に多くの
方々のご参加とご協力をいただ
きありがとうございました。順
調に計画を実行できました事に
感謝いたします。

5 / 23(水) 互助会総会

(於)ホルトホール

10 / 16(火)

親睦旅行(日帰り)

下関港・門司港レト
口へ、関門トンネル
歩行者道を歩む

11 / 11(日)

第3回ふれ愛フエスタ

約650名来場。新

規にバルーンアート、
バナナのたたき売り、
軽食販売(社会福祉
法人シンフォニーの
協力)実施。好評裡
に終了...

又、大分花火大会後の清掃、
いこいの道の清掃ボランティア
活動にも参加してまいりました。
残る行事は

1 / 23(水) 囲碁・将棋大会開催

(於) 植田公民館

2 / 20(水) 第2回ボウリング大

会開催

(於) OBS明野ボウル

を予定しています。

新年度も、昨年同様継続して
計画実行し、会員皆様の親睦と
融和の場を拡げる機会を作りた
いと思います。

これら計画をスムーズに実行
すべく役員一同頑張つてまいり
ます。

今年も一層のご協力とより多
くの方々のご参加をお待ちして
おります。



シルバー会員の手記「その二」

第十二号に掲載した投稿文の続きです。

(匿名希望者です)

几帳面なM子さん

四月二十八日(土)朝八時にM子さん宅に着いたとき、M子さんの前庭の駐車場でしきりに車を見つめているM子さんに気付いた。白い車が「違反駐車」だとい

える。

五月二十二日(火)

今朝も笑顔で迎えてくれたM子さん。彼女の興味のありそうな大分合同新聞の記事を選んで読み上げた。

「そんなこともあるのね。気の毒に」と、記事の内容に気持ちが悪くて理解していることが分かった。その後、「持っていくバッグは？」と問うと「ここにあるよ」という。この頃持ち物のあり場所の記憶が間違っていることが少なくなっている。

「今日も準備が出来ているじゃない」と中を調べる。「おむつだけが足りないか。お迎えの人に、『今日は、おむつが入って

いませんか』と伝えましょうね」といふと、彼女はひとり着替えとおめかしに寝室に入った。ところが、お迎えの車が来たときはバッグの中にきちんとおむつ

が入っていた。これには驚いた。着替えの時間におむつの事を覚えていて自分で用意できたのだ。前の記憶が繋がってきた。初めて会った時のM子さんではないような心配りができていたのだ。お会いしたころの半年前とは雲泥の差。「すごい！出来るじゃない」思わず声に出した。彼女に聞こえたかな。

突然の通告

五月二八日(月)午前八時四五分M子さんをお見送りする時、お迎えの施設の方から突然「M子さんのお世話は、今日までです」と告げられた。嘘！でしょう。信じられない。私は思わず「首ですか」と尋ねた。

「そうでなくて急に施設に入ることにしました。良くして頂いたのに申し訳ありません」といふ

「何故今なの」「順調に回復している今なの」と突然の事の成り行きに声には出さなかったが、心の中で不条理を感じていた。

だが、施設の方の後の説明に聞いていくうちに事態を受け入

れた。自分の全く知らないM子さんの時間、世界があることを知り、残念だけれど、もうM子さんの話し相手になれないことをはっきり自覚できた。いつごろか「わざわざありがとうございます」との言葉とともに毎朝お茶を振る舞ってくれるのが習慣になっていたM子さん。もう一度「お友達でいてくれて、ありがとう。貴女の善意がすれませんが。七ヶ月間楽しかったね」と直接告げたい。

M子さんが時間はかかるかもしれないが、やがて気持ちが落ち着いて施設の皆さんとの生活に慣れ親しんで、又失われた記憶が戻ることを願う。時間をかければきっと取り戻せると思う。そして残りの時間を周りの人を愛し愛されて楽しい時間を過ごしてほしい。

幾度か二人で話題にしたことのある玄関先のゼラニウムは、M子さんがプランターで育てた花の一つ、そのサーモンピンク色の花がお別れの朝、一段と輝きを増していたことも覚えていてほしいとも思った。



俳句

ゴミたちも 工夫次第で
宝物

冬近し 葉の力
借りる日々

冬椿 鋤いてすつきり
一樹かな
渡辺佳津子 (東大分B班)

深草秀昭 (西ノ台B班)

朝日さす 雪解け道に
春の声
高崎甚平 (大道班)



宗麟の 頬を緩めし 踊かな

事務長も 教頭もゐて
踊るかな
牧 一男 (東大分A班)

漁釣りの 老人ひとり
冬の湾

産土の 小鹿田の里の
冬日影
生野義晴 (川添B班)

余裕もち 今日一日を
無事おえる
山村カツ子 (鶴崎B班)

川柳

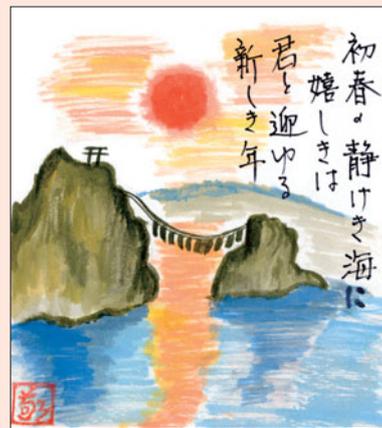
七癖も 受けとる余裕
年の功

初詣で 小さな願い
一つだけ
四童子弥生 (南大分A班)

四童子弥生 (南大分A班)



短歌



池田弘文 (荷揚・長浜班)

笑顔さえ 真顔に映る
尾島氏の 日焼けした顔
私心無き顔

差出の 恩師の年齢 推し量る
「妻の死去にて喪中」のハガキ
衛藤勝行 (判田東班)

男名で 依頼のありし
ご邸宅 気配も無く
侘しきかな
深草秀昭 (西ノ台B班)



シルバーだより

道標 第13号

●発行/平成31年1月1日

●発行所/

公益社団法人 大分市シルバー人材センター

〒870-0026 大分市金池町3丁目2番3号

TEL 097-538-5575

FAX 097-538-5576

ホームページのご案内

<http://oita.o-sjc.com/>

● 会報編集委員

幸野 正市・後藤 幸敏
那賀 美保・池邊 義幸

編集後記

昨年は会員皆さんや職員の協力により会員数の増加、事業の進展等大きく飛躍できました。特に会員数については、全国のシルバー挙げて第二次100万人達成計画の初年度として様々な取組みを進めていますが、当センターにおきましては、一人一会員増強運動を掲げ、お陰様で12月までに会員数は1577名と昨年度末を68名上回る事が出来ました。中期計画の1630名に向け今後も更なるご協力をお願いいたします。

本年は亥年すなわち新たな生命が宿る年といわれています。事業でいえば準備期間とでもいうのでしょうか、将来の果実を得るには周到な準備は欠かせませんが、会員皆様そしてセンターにとって何に備えればいいのかしっかりと考えてみる事が大切なようです。